クロノツキー生物圏保護区のオオハクチョウ

藤　巻　裕　蔵

カムチャツカのオオハクチョウについては，クロノツキー生物圏保護区のロフコフ博士の論文「カムチャツカにおけるオオハクチョウの繁殖・渡り・越冬」があり，この保護区におけるオオハクチョウの生息状況が明らかにされている（Lobkov　1987）。私は，今年7月1～9日に保護区のうちウゾン山カルデラで営巣場所など繁殖状況を自分の目で見ることができた。

今回の調査は，日ソ渡り鳥保護条約にもとずく共同調査で，ソ連国家自然保護委員会の招待により日本からは私を含め6名が参加した。調査地は，カムチャツカ州の州都ペトロパフロフスク・カムチャツキー市の北東約150Kmにあるクロノツキー生物圏保護区である。保護区は東西に100Km，南北に60Kmで，面積にして96万haもある。ここは研究や管理以外の目的では原則として立入禁止であるため，道路はない。そのため移動手段は徒歩によるかヘリコプターとなるが，今回保護区全域をまわることはできず，保護区西端に近いウゾン山カルデラ，ゲイゼル谷，セミャチク潟の3か所で調査を行なった（図1）。

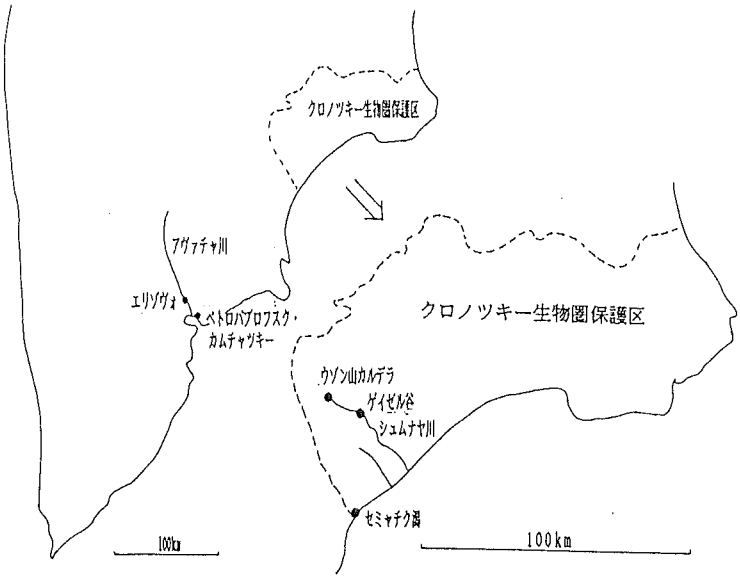

図1.　調査地位置図

このうちオオハクチョウを観察できたのはウゾン山カルデラだけである。

ウゾン山カルデラは標高650mであるが，北緯54～55度にあり，もう森林限界の上である。大きさは12×9Kmで周りを山に囲まれているが，その中で最も高いのが北西部にあるウゾン山（1,617m）である。カルデラ内は平担ないしはやや起伏がある程度であるが，南西部と西部はやや低く，沼・湿地とな

っている。中央部は湿泉の出ている「テルマリノエ・ポーリェ（暖かな野原）」で，この部分にも大小の沼がある。沼には冷水のものと，温泉の出ている温水のものがあるが，カルデラ内で最大のツェントラリノエ湖は，冷水の沼である。面積は110*ha*，水深は50*cm*くらい，南岸と東岸は湿潤で「湿潤ツンドラ」となっており，湖面の氷が融けるのは5月前半であるという（Golovanov　1985）。

この沼でオオハクチョウ1つがいが営巣しており，抱卵中であった。巣は沼のほぼ中央にあり，巣の上端は水面から20*cm*くらい出ていた。ロフコフ博士の話では，巣は沼が凍結するため冬の間に積雪で壊れてしまい，毎年春に沼の周囲からコケや水草を集めてきては水中から積み重ねて巣を造るそうである。沼の水深が50*cm*はあるというので，巣材はかなりの量になるだろう。このほか，カルデラ内にはもう1つがい，計2つがいが営巣するとのことであった。

Lobkov（1983）によると，1971～1979年にウゾン山カルデラでは，毎年ではないが1～2つがいが繁殖した。今年の2つがいは，これまでの営巣数の範囲内といってもよいであろう。

カルデラ内には営巣しているつがい以外に，非繁殖鳥と思われるものがいた。これらは5～8羽の群で，沼にいたり，ときどきカルデラ上空を飛んでいた。双眼鏡で観察したかぎりでは，これらは全て成鳥羽で，おそらくまだ若い個体と思われる。

なお，ロフコフ博士の話では，今後は調査や野鳥観察のため保護区への外国人の訪問を歓迎するとのことである（もちろん年間の立入人数の制限はあるが）。このカルデラには調査用のステーションがあるので（写真1），将来オオハクチョウの生態について共同研究をするような場合には，これを利用できると思う。

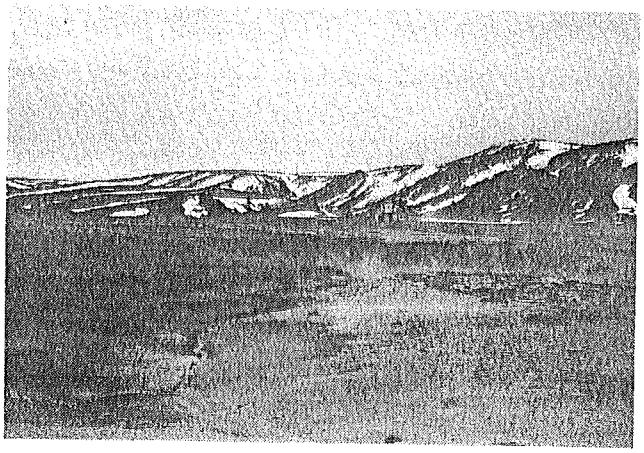

写真1　ウゾン山カルデラ内の状状とステーション。

文　　献

Golovanov, V. D. (ed.)　1985. ソ連の自然保護区，極東の自然保護区．ムィスリ出版，モスクワ［原文ロシア語］。

Lobkov, E. G.　1987. カムチャツカにおけるオオハクチョウの繁殖・渡り・越冬．ソ連におけるハクチョウ類の生態と渡り，85－87．［和訳は日本の白鳥№16（1990）に掲載］